

令和2年度美馬市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和3年2月17日(水) 午後0時55分から午後2時10分まで

2 場 所 美馬市役所南館 3階306会議室

3 出席者 美馬市長 藤田 元治
(構成員) (教育委員会)
教育長 村岡 直美

教育長職務代理者 上田 加代
委員 近藤 陽子
委員 眞鍋 昇司
委員 河合 純治

(構成員以外の出席者)

大泉副教育長
藤本教育総務課長
藤山教育指導監
尾形教育総務課主幹
大森地域学習推進主幹
鉄野脇町幼稚園長
吉田企画総務部長
藤本企画総務部次長(総務課長事務取扱)(事務局長)
富永総務課課長補佐(事務局)

4 欠席者 住友教育委員会事務局次長(穴吹給食センター所長事務取扱)

5 傍聴者 なし

6 日 程 開 会
市長あいさつ
議題
(1) 令和2年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について
(2) 教育費の令和3年度当初予算(案)について
(3) 学校安全について
(4) その他の件について
閉 会

吉田企画総務部長

企画総務部長の吉田でございます。
定刻となりましたので、ただいまより令和2年度美馬市総合教育会議を始めさせていただきます。
それでは、開会に当たりまして、藤田市長よりご挨拶を申し上げます。

藤田市長

みなさん、こんにちは。いつも大変お世話になっております。美馬市長の藤田元治でございます。
本日は、「令和2年度 美馬市総合教育会議」を開催致しましたところ、委員の皆様には、ご多忙にも関わらず、ご出席を賜り誠にありがとうございます。
また、皆様方には、常日頃から、本市行政各般、とりわけ、教育行政の推進に、ご尽力を賜っておりますことに対しまして、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。
さて、本年度も残すところ、あと1か月余りとなりましたが、改めて振り返りますと、本年度は、「新型コロナウイルス感染症」に向き合い、その対策に取り組んだ一年でありました。
また、その影響は、学校の臨時休業など、児童生徒の生活にも、大きく影響するものとなりました。
そのような状況におきましても、本市では、感染拡大の防止対策と社会経済活動の維持を両立させるよう、4月の緊急経済対策「第1弾」に続き、緊

藤田市長

急経済対策「第2弾」、「第3弾」と、一進一退する「新型コロナウイルス感染症」拡大の各ステージに対応するものとして、市内業者の支援を兼ねた給食食材の充実事業、通学時に利用するスクールバス、タクシーの密接状態を回避する為の増便事業など、スピード感を持って実施してまいりました。

また、「感染対策の決め手」とされる「新型コロナウイルス」のワクチン接種につきましては、市民の皆様にご協力いただき速やかに接種が実施できるよう、保健師などを中心とした「美馬市 新型コロナウイルスワクチン接種業務 プロジェクトチーム」を2月1日に設置したところでございます。

現在、「緊急事態宣言」が、10都府県で発出されており、まだ、その収束は見通せない状況ではありますが、今後も、市民の皆様のご命と生活を守るため、全庁一丸となって全力で取り組んでまいりたいと考えております。

次に、本市独自の取り組みである「ヴォルティス・コンディショニング・プログラム」につきましては、昨年5月に、Jリーグ全56クラブの社会連携活動の中から、特に社会に共有したい活動を表彰する「2020チャレンジ！アウォーズ」の「パブリック賞」に、7月には「日本国際交流センター」主催の「第1回 アジア健康長寿 イノベーション賞」自立支援部門の「国内優秀事例賞」にそれぞれ選ばれました。

今後におきましても、これらの賞の受賞を励みとし、生涯にわたり、住み慣れた地域で、よろこびや生きがいをもって健康に暮らせるまちづくりを推進してまいります。

次に、「学校給食」についてであります。「学校給食」は、子どもたちが元気に学校生活を送るための活力を支えるものでありまして、本市におきましては、「県下一おいしい学校給食」の実現をめざしているところであります。

そのような中、平成30年度から、「全国学校給食 甲子園」という全国規模の大会に応募してまいりましたが、本年度、徳島県の代表を選定する「第2次審査」におきまして、「江原南共同調理場」の「菊芋」、「しいたけ」、「米」、「はっさく」などの美馬市産の食材を活かした献立が、「県下一」であると、評価されたところであります。

今後も、本市の全ての調理場におきまして、子どもたちに、おいしい給食が提供できるよう、引き続き、取り組んでまいりますとともに、「学校給食センター」の一元化を図るための施設整備につきましても推進してまいります。

さて、令和2年度は、「第3次総合計画」のスタートの年でもあります。

この総合計画では、本市の将来像を、「美しく駆ける 活躍都市 美馬～住み続けたいまちをめざして～」とし、美馬市の未来を市民の皆様と行政が力を合わせて創り、生み出すこと、すなわち「美来創生」により、誰もが健康で活躍できるまちをめざすこととしておりまして、この総合計画に基づきまして、「令和3年度当初予算」の編成を進めてまいりました。

その中の、「学校教育関係予算」では、コロナ禍において求められた、教育ICTの家庭への活用拡大に対応するため、1人1台端末の学習教材ソフトやウイルス対策ソフトの使用経費を計上しております。

また、保護者との新たな連絡ツールソフトの活用や、スクールサポートスタッフや部活動指導員の配置事業により、先生方の業務負担を軽減し、学校における「働き方改革」につきましても推進してまいります。

次に、「社会教育関係予算」では、「うだつアリーナ大規模改修工事」をはじめ、社会教育施設の適切な管理を行い、スポーツや文化活動による市民の皆様のご心と体の健康づくりにつなげてまいります。

これらの詳細な内容につきましては、後ほどの議題の中で、ご説明しますので、皆様からご意見等を頂ければと存じます。

市と致しましては、今後とも教育委員会との連携をもとに、教育行政のなお一層の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

吉田企画総務部長

ありがとうございました。それでは、議題の方に移らせていただきます。議事の進行につきましては、美馬市総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、藤田市長をお願いいたします。

議長（藤田市長）

それでは、これより私の方で進行をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

議長（藤田市長）	まず、議題1の令和2年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について、事務局より説明をしてください。
事務局長（藤本総務課長）	それでは、議題1の令和2年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について、それぞれの担当課から、説明をさせていただきます。まず、教育総務課から、続いて、地域学習推進課から、本年度実施いたしました特徴的な事業の概要について説明させていただきます。
藤本教育総務課長	<p>それでは議題（1） 令和2年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について、始めに、教育総務課所管分として学校教育について説明させていただきます。</p> <p>資料1ページをお願いいたします。</p> <p>始めに教育のICT化に向けた環境整備事業でございます。</p> <p>1. 事業目的は、子育て世代に支持されるまちを目指し、教育ICTを最大限に活用し、教育の環境と質の向上を図ることにより、5. 0 Society時代に対応した地域や日本の未来を主体的に担う子どもたちを育成するものです。</p> <p>2 事業内容といたしまして、令和2年度は、国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校全ての教室と体育館へ高速大容量の校内LANの整備と一人一台のタブレット端末の整備事業を実施しました。</p> <p>また、前年度に既に、整備済みの児童生徒数の1/3台のタブレット型端末をプログラミング学習やグループ学習に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図っています。</p> <p>職員研修では、新型コロナウイルス感染症による臨時休業に対応するためのオンライン教育のための研修も追加して実施し、ICT教育支援員を中心として、教職員の指導力の向上に取り組みました。</p> <p>写真の上段①は、中学校の生徒が、昨年整備した大型電子黒板を活用して英語でプレゼンテーションを行っている様子です。</p> <p>②は、オンライン学習を想定した、家庭と学校を結んだ実験的な学習の様子です。</p> <p>下段の③は、小学校でのドローンを取り入れたプログラミング学習を行っています。④は新型コロナウイルス感染症対策としての、オンラインによる学校集会です。</p> <p>このほか、各学校の取り組みは、別添の美馬市立小中学校 令和2年度学校活動に各校の取り組みが掲載されております。17ページの美馬小学校をご覧ください。</p> <p>県の理科教育研究大会の会場校として、ICT環境を活かした理科実験の振り返りなどへの活用が紹介され、子どもたちがタブレット端末の操作になれ、学習に集中して取り組んでいる様子が報告されております。</p> <p>また、57ページの穴吹中学校をご覧ください。</p> <p>オンラインによる他校との交流や合同学習等、校内の枠を超えた利用や通常の授業でも日常的に活用が進んでいます。</p> <p>他校におきましても、積極的な活用がそれぞれ報告されております。後ほどご覧ください。</p> <p>教育ICTにつきましては、新型コロナウイルス感染症対応のため、家庭学習や3密を避ける学校活動などへ活用範囲が広がっております。次年度はICT支援員の1名の増員を予定しており、学校ICTの利活用への支援の充実を図っていきます。</p> <p>次に、2ページをお願いいたします。</p> <p>美馬市英語教育推進事業 ～0歳児から中学卒業までの一貫した英語教育の実現～についてでございます。</p> <p>1. 事業目的といたしまして、子育て世代に選ばれる質の高い教育を実現に向け、「美馬市英語教育推進計画」に基づく「0歳から中学校卒業までの一貫した英語教育」を実施し、グローバル化が進展する『新しい時代』に対応できる人材を育成することを目的と致しております。</p> <p>2. 事業内容は、新学習指導要領により、令和2年度から実施される小学校3年生からの英語活動・教育を本市では2年前倒しして実施しており、2名の外国語教育指導監の巡回指導や学習計画の支援により、教員の指導力は継続的に向上し、小学校での円滑な英語教育が実践できております。</p> <p>また、認定こども園でのネイティブスピーカーによる英語活動や、小学校</p>

1年生から市単独で任用している外国語活動支援講師と担任のT・Tによる英語活動により就学前から連続性を持って英語への興味関心を高め、小中学校の教科教育へ繋げています。

中学校では、新型コロナウイルス感染症の影響で、ALTが一名欠員となりましたが、遠隔授業も併用しながらTT授業を実施し、コミュニケーション学習の強化を図っています。

中学3年生の英検3級合格者50%を目標した英検受験料助成事業の今年度の実施状況は、市内の中学3年生生徒数195名のうち、助成者数は、100名で、生徒数に対する割合は51.3%、3級（一次）合格者は1月末現在で、88名で、生徒数に対する割合は、45.1%で、昨年度より、助成者で、6.2%、合格者割合は、16.7%上回ることができ、助成制度の利用効果が上昇いたしました。

令和元年度 受検者数割合は、42.8%、英検3級以上合格者の割合は28.4%

今年度はコロナ禍ではありましたが、中学校ではALTと協力し英検受験への支援をおこない、受験率、合格者率の向上に繋げていただきました。

なお、助成事業の利用率につきましては、学校間にバラツキがありますので、次年度は、利用率の目標値を学校と共有し、事業の一層の推進を図ります。

添付の写真は認定こども園の園児の様子です。

講師との活動に集中して取り組んでいます。

小中学校の取り組み状況につきましては、別添の学校活動の資料によりまた御確認ください。

続きまして3ページをお願いいたします。

美馬市産米給食推進事業 ～県下一美味しい給食を目指して～ でございます。

1. 事業目的は、学校給食に、美馬市産の美味しいブランド米を提供し、美味しい学校給食による地産地消を推進と、食による郷土への愛情を育て、子どもたちの心身の発達を図るものでございます。

2. 事業内容といたしましては、子どもたちに美味しいお米と栄養バランスのとれた安全安心で美味しい給食を提供するため、統一献立の実施や全国学校給食甲子園への参加により、地産地消や特色ある学校給食づくりを進めてまいりました。

本年度の全国学校給食甲子園では、県内の一次審査を通過した6場に穴吹学校給食センター、江原南共同調理場、デリバリー給食の3場が選ばれ、江原南共同調理場は、県代表となることもできました、次年度も引き続き、美味しい給食づくりを各調理場で進めていただきます。

本年度の全国給食甲子園参加献立は記載のとおりですのをご覧ください。

また、毎年度実施している給食に関するアンケートでは、給食や、お米のおいしさなどの満足度は昨年度より若干向上しております。また、食べ残しは、毎年およそ半数の児童生徒がある又は少しあると回答しています。今後は、詳細を検討し、食品ロスに繋げていきたいと思っております。

4ページをお願いいたします。

本年度実施した主な市内小中学校施設管理・整備関係事業でございます。

1) GIGAスクール環境整備事業は、令和元年度からの繰越し事業で、小学校8校、中学校6校に、高速大容量の校内ネットワーク設備の改修を行い、また、タブレット型端末用充電保管庫も増設しております。

2) の、小学校駐車場整備事業は、江原南小学校、岩倉小学校において学校敷地内の舗装を行い、駐車場を整備いたしました。

3) 岩倉小学校プール濾過設備更新事業は経年劣化により破損した濾過タンクの取り替え工事を実施いたしました。

整備箇所の写真を添付しておりますので御確認ください。

教育総務課所管分の主要事業の説明は以上でございますが、小中学校のICT教育、英語教育について、またコロナ対策その他の教育活動について各校の実施状況を別添の資料にまとめていただいておりますので、ご高覧ください。

また、学校活動の映像も後ほど、紹介させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

続きまして、地域学習推進課よりご説明いたします。

資料の5ページをお開き下さい。1の社会教育関係でございます。まず始めに、成人式でございます。

令和2年度美馬市成人式を、令和3年1月2日に、美馬市地域交流センター「ミライズ市民ホール」予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民の健康と安全を優先し延期とさせていただきます。

延期後の開催日程については、現在のところ未定であり、今後、新成人でつくる成人式企画運営委員会で協議し、決定する予定です。対象者は本年度282人、来年度262人となっております。

次に、放課後子ども教室運営事業でございます。

事業内容といたしまして、学校施設などを活動拠点とし、地域住民の参画のもと、子ども達の安全で健やかな居場所づくりを推進する事業でございます。

市内7小学校区（江原北、江原南、脇町、岩倉、美馬、三島、穴吹）と、3スポーツクラブ（穴吹スポーツクラブ・スポーツクラブ美馬・穴吹ソフトテニス教室）が運営を行い、520人の子ども達が参加しております。

市内全校区の小学生を対象として、うだつアリーナで開催しております、うだつコミュニティスポーツクラブは、コロナ感染症対策のため、今年度の活動は休止しておりますが、来年度は感染症対策を講じた上で教室運営を検討しております。

次に、市立図書館運営事業でございます。

美馬市立図書館は、株式会社図書館流通センターに指定管理として委託し、運営を行っております。

本年1月末までの利用状況といたしましては、開館日数230日の間に、来館者数が5万4千943人で、昨年度の約半数となっております。また、本の貸出しを利用した方が1万7千871人、貸出冊数が12万2千048冊で、こちらに関しても減少となっております。

この間のコロナ感染症対策としましては、4月22日から5月12日まで休館し、この間に特別整理を行いました。

次の6ページをお願いします。

また、来館者には、手指消毒と、連絡先の記入をお願いしており、貸し出し図書については、図書除菌機で除菌しております。

各種イベントについてですが、7月1日から7月27日まで「とくしま藍の日・とくしま藍推進月間」にあわせて、四国大学出張展示「藍絵巻と藍染め作品展」を開催し、藍にゆかりのある美馬市の、藍の歴史・文化について発信しました。

8月1日から8月30日まで「企画展～和の雨音～」を開催し、美馬市地域おこし協力隊が所有する日本各地の和傘を展示しました。

また、毎年県立文書館、県立博物館、四国大学、うだつの町並みボランティアガイド連絡会などと連携した展示会を開催し、郷土の歴史や文化を学ぶ機会を提供しています。

今年も引き続き「美馬の記憶 デジタルアーカイブ」として美馬の古写真の収集公開や、美馬市内各学校や施設等への出前事業を実施しています。

その他としましては、令和2年4月23日「子ども読書の日」に、「令和2年度子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰をいただきました。

また、公民連携の取り組みが「まちの力を引き出したPPPアワード2020」（主催：日経BP総合研究所）に入賞しました。

これは、PPP：民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指す。もので、民間事業者の参入を促すことを目的に、人口20万人未満の自治体における3つのテーマ、「健康・福祉」「にぎわいづくり」「SDGs」に関する公民連携の事業で、それぞれの先進的な取り組みを表彰するものです。

今年度は全国で25件入賞しています。

そして、令和3年2月1日には、来館者数が30万人を達成いたしました。

次の7ページをお願いします。

次に、人権教育でございます。

人権教育指導者育成講座についてですが、市内の企業・団体や地域の人権教育指導者の育成を図るため、年4回開催しており、企業・各種団体などが

ら41人が受講しています。

続いて、人権フェスティバルです。令和3年2月20日（土）から2月28日（日）まで開催予定です。会場は、地域交流センター「ミライズ」市民ホール周辺ギャラリーにおいて作品展示を行います。

内容は、教育集会所で人権教育の推進を目的として学ばれている、教室生の作品の他、市内の障害者施設（かしがおか・まいか・小星園）や識字学級、また美馬市内児童・生徒の徳島県人権啓発ポスター入賞作品も展示いたします。

今年度は、コロナ感染症対策のため、例年行われていました開会式並びに芸能発表は中止し、作品展示のみで開催いたします。

人権講演会につきましては、毎年開催しておりましたが、コロナ感染症対策のため中止いたしました。

次に、2の第16回美馬市文化祭でございます。

「第16回美馬市文化祭」を令和2年11月14日から20日までの7日間、地域交流センター「ミライズ」において、開催いたしました。

14日の開会行事では、ヴォルティスコンディショニングプログラム紹介のあと、開会式並びに「美馬市15周年功労者表彰」を行いました。

午後からは、文化講演会・教育振興大会として、講師に篠原信一氏をお招きし、「挑戦する心」と題して講演いただきました。

その他、会場の外では、地産地消・美馬の農林産物フェアも開催しています。

今回は、コロナ感染症対策のため、例年行われておりました、芸能発表は中止とし、作品展示にみの開催といたしました。

また、協賛事業といたしまして、9月17日から12月15日の間に、文化・芸能・スポーツなどの26の行事も行いました。

次の8ページをお願いします。

3. 社会体育関係でございます。

市体育協会では、加盟団体が22団体、会員数は1,347人でございます。

総合型地域スポーツクラブが5団体ありまして、スポーツ推進委員が32人、スポーツ少年団は12団体195人、それを指導します指導者が52人でございます。

次に、社会体育施設といたしまして、うだつアリーナ、穴吹スポーツセンター、美馬市民グラウンド、吉野川河畔ふれあい広場などの施設管理を行っています。

各種スポーツ大会についてですが、「第67回徳島駅伝」並びに「第11回美馬駅伝・クロスカントリー大会」はコロナ感染症対策のため中止といたしました。

4. 文化財関係でございます。

本市におきます、指定文化財といたしまして、国指定重要文化財が5件、国選定重要伝統的建造物群保存地区が1件、国登録有形文化財が28件、県指定文化財が17件、市指定文化財が59件ございます。

本年度の指定文化財修理事業といたしまして、国重要文化財「三木家住宅」の自動火災報知器設置事業の補助を行いました。

次の9ページをお願いします。

伝統的建造物群保存対象事業でございます。

事業内容といたしまして、国選定重要伝統的建造物群保存地区内に所在する、

伝統的建造物群の保存修理に係る補助を行うもので、本年度は、藤見家2件、正木家、森家の計4件の補助を行い、現在実施中でございます。

また、令和元年8月に発生した、台風10号の影響で被害を受けた吉田家住宅ほか（向井家、中川家、平田家、旧西山家、野崎家）計6件に対しましても、災害復旧の補助を行いました。

次に、埋蔵文化財関係でございます。

埋蔵文化財包蔵地内の、開発行為に伴う、事前調査を本年1月末時点で、15件行っております。

次に、各種検討委員会の開催でございます。

国史跡「郡里廃寺跡整備事業検討委員会」についてですが、コロナ感染症対策として事前に書面協議を行い、10月に開催いたしまして、保存活用計画策定にむけて協議を行いました。

大森地域学習推進課主幹

また、歴史資料館整備検討委員会つきましても、9月に開催し、来年度の整備に向けて展示説明文などの協議を行い、事業を進めております。最後に、日本遺産「藍のふるさと阿波」魅力発信事業でございます。令和元年5月に日本遺産に認定されました、阿波藍について、魅力発信動画を作成し、あわせてより広く、より深く魅力を発信するため、サポーター養成講座を開催いたしました。以上で地域学習推進課の主要事業実施状況の説明を終わります。よろしくお願いたします。

議長（藤田市長）

議題1について、それぞれ説明がございましたが、何かご意見等がございましたら、お願いたします。

（意見なし）

なければ、それでは、次に議題2の、教育費の令和3年度当初予算（案）について、事務局から説明してください。

大泉副教育長

「教育費の令和3年度当初予算（案）について」ご説明いたします。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。資料の（11）ページをお願いします。こちらの表は、「令和3年度 当初予算」案のうち、教育関係予算の概要を記載したものでございます。この表につきましては、左から、右に向かって、「予算の『項』と『目』の区分」、「令和3年度と令和2年度の予算額」、「予算額の比較」、「財源内訳」となっておりまして、右端の「説明」欄には、「目」ごとの主な事業などについて、記載を致しております。それでは、この表における、主な内容について説明させていただきます。最初に、「教育総務費」の「項」でございます。「目」の上段の「教育委員会費」の予算額は、2年度の予算額と比較して、「3千円」「減額」の「84万7千円」を計上しておりまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「教育委員会委員」4人の報酬などでありまして、「目」の下段の「事務局費」の予算額は、「2億3千545万1千円」を計上しておりまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「外国語活動 支援講師」が「2人」と、「外国語教育 指導監」は、前年度の「2人」から1人減って、「1人」を配置する報酬などを計上しています。このほか、説明欄への記載はございませんが、「事務局費」には、教育長や教育総務課の職員の人件費をはじめ、学校医や学校薬剤師、また、「ICT教育支援員」「1人」と、「2人」に増員する「ICT支援員」などの人件費の計上のほか、令和4年度からの5年間を計画期間とする「第3次教育振興計画 策定事業」の経費として、「520万円」などを計上しております。また、2年度は、新型コロナの影響を受けて、「ミライズ市民ホール」で実施しておりました「美馬の子どもたちに本物の音楽を」体験する機会を提供する事業が実施できませんでしたが、3年度は、これまで行われてきた事業に代わり、「よんでん文化振興財団」のアーティスト派遣助成事業を活用いたしまして、市内の中学生を対象にした「子どもたちに感動を与える芸術体験事業」を実施する予定でありまして、生徒輸送のバス借上料などの経費「83万5千円」などを計上しています。なお、2年度の予算額と比較して、「200万1千円」の「増額」となった主な理由は、「会計年度任用職員」の期末手当を通年計上したことのほか、教育系サーバの更新や、「第3次 教育振興計画策定事業」の経費を計上したことなどがございます。次に、「小学校費」の「項」でございます。上段の「学校管理費」の予算額は、「1億5千911万8千円」を計上しておりまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「市内の小学校の管理運営費等」と「教育用コンピュータ借上料等」であります。このほか、説明欄への記載はございませんが、「会計年度任用職員」の「

助教員」や「支援員」の人件費も計上しております。

このうち、「教育用コンピュータ借上料等」の主なものとしては、パソコン教室に整備しているノート型パソコンの借上料、「1千772万9千円」や、「スライド式大型電子黒板」の借上料「773万1千円」、また、3年度から新たに発生した「オンライン学習教材使用料」「233万円」などがあります。

なお、2年度の予算額と比較して、「1千778万2千円」の「減額」となった主な理由は、児童が活用するタブレット型端末の借上料の減額、「1千110万5千円」や、岩倉小学校のプールろ過設備の更新が完了したことによる減額、「620万円」などです。

このうち、タブレット型端末の借上料の「減額」につきましては、昨年度、元年度に、児童生徒の「3人に1台」の割合で「タブレット型端末」を整備した際には、これを、借り上げて、各小学校と中学校に配置しました。

そして、本年度、2年度には、タブレット型端末が、「1人に1台ずつ」行き渡るように、こちらは、借上げではなく、購入をして整備しているところですが、学校現場からは、小学校は小学校で同一の機種を端末を、一方の中学校も、同様に、同一の機種を端末を配置して欲しいとの要望がございましたので、本年度の購入する端末につきましては、全て各小学校に配置することとしています。

これに伴い、元年度に借上げにより整備した端末のうち、現在、小学校に配置しているものについては、これを引き上げて、中学校で使うようにするため、来年度、3年度の予算では、「中学校費」において、借上料を計上することになります。

このため、本年度は、「小学校費」において、計上しておりました借上料の予算「1千110万5千円」を、3年度には、計上しませんので、「減額」となるものであります。

次に、下段の「教育振興費」の予算額は、「7千750万4千円」を計上しておきまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「スクールバス等運行事業」と「要保護及び準要保護児童 就学援助費」などです。

このほか、説明欄への記載はございませんが、「会計年度任用職員」の「スクール・サポート・スタッフ」の人件費も計上しております。このうち、「スクールバス等運行事業」は、タクシーによる遠距離通学 支援事業の分も含めまして、「3千421万2千円を、また、「要保護及び準要保護児童 就学援助費等」は、「特別支援教育 就学奨励費の分」も含めまして、「2千47万1千円」を、計上しております。

なお、2年度の予算額と比較して、「596万1千円」の「減額」となった主な理由は、「スクールバス運行委託料」の減額「678万4千円」などです。

次に、「中学校費」の「項」でございます。

最初に、「学校管理費」の予算額は、「1億1千72万7千円」を計上しておきまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「市内の中学校の管理運営費等」と「教育用コンピュータ借上料等」であります。

このほか、説明欄への記載はございませんが、「会計年度任用職員」の助教員や支援員の人件費も計上しております。

「教育用コンピュータ借上料等」の主なものとしては、「3人に1台」の割合で導入したタブレット型端末の借上料、「1千786万2千円」、パソコン教室に整備しているパソコンの借上料、「1千万8千円」や、「スライド式大型電子黒板」の借上料「458万1千円」、また、3年度から、新たに発生した「オンライン学習教材使用料」「446万5千円」などです。

なお、2年度の予算額と比較して、「1千201万7千円」の「増額」となった主な理由は、先ほど、「小学校費」において、ご説明申し上げたように、元年度に児童生徒の「3人に1台」の割合で整備したタブレット型端末について、現在、小学校に配置しているものも含めて、全て中学校で使うため、2年度には、「小学校費」で計上していた借上料を「中学校費」において、計上することによるものであります。

次に、「教育振興費」の予算額は、「7千911万4千円」を計上してお

りまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「スクールバス等運行事業」と「要保護及び準要保護生徒 就学援助費」などでございます。

このほか、「説明」欄への記載はございませんが、「会計年度任用職員」の「部活動指導員」や、「スクール・サポート・スタッフ」の人件費も計上しております。

このうち、「スクールバス等運行事業」は、タクシーによる遠距離通学支援事業の分も含めまして、「2千514万円」を、また、「要保護及び準要保護 生徒就学援助費」は、「特別支援教育 就学奨励費」も含めまして、「1千986万3千円」を、計上しております。

また、就学援助に係る新規事業と致しまして、本年4月に開校する県立夜間中学校「しらさぎ中学校」に、本市から通学する者に対し、通学費や学用品費などを支援する「夜間中学校就学援助費」、「25万4千円」も計上しています。

なお、2年度の予算額と比較して、「1千32万8千円」の「増額」となった主な理由は、「スクールバス運行委託料」が、「460万5千円」の「増額」や、3年度から、新たに「デジタル教科書ライセンス料」、「289万5千円」が発生したことなどでございます。

次に、「外国青年招致事業費」の予算額は、「3千295万8千円」を計上しておりまして、予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「外国語指導助手」、いわゆる「ALT」「7人分」の活動経費などです。

「ALT」は、平成30年度の8月から、それまでの4人から、3人増加し、7人体制と致しまして、市内の各中学校に、1人ずつ常駐するように、配置しておりましたが、現在は、新型コロナの影響で、「1人」が来日できないことから、「6人体制」を余儀なくされているところであります。

こうした現状ではございますが、3年度の予算につきましては、「7人体制」として、計上しております。

なお、2年度の予算額と比較して、「85万6千円」の「増額」となった主な理由は、「ALT」の報酬額は、任用期間が、1年、延びるごとに、増額するような制度となっていますので、この制度による人件費の増額や、新規の「ALT」が来日することができた際の、新型コロナ対策として行われる、宿泊日数の増加による経費の「増額」などでございます。

次に、「学校建設費」の予算額は、「1千199万8千円」を計上しておりまして、「説明」欄に記載のとおり、上段の「美馬中学校 屋内運動場 耐力度調査 委託料」につきましては、令和元年度に策定した「学校施設 長寿命化 計画」において、老朽化した同校の屋内運動場は、長寿命化を図るための改良の順位が、1番となっていることから、耐力度調査委託料として、「72万2千円」を計上しています。

下段の「穴吹中学校 防球フェンス 更新工事請負費」につきましては、経年劣化により基礎部分に損傷がみられ、支柱の支持力が損なわれており、倒壊の危険性が高まっていることから、更新工事請負費として、「1千127万6千円」を計上しています。

なお、2年度の予算額との比較につきましては、記載のとおりでございます。

次に、表の最下段の、「幼稚園費」の「項」でございまして、予算額は、「6千584万9千円」を計上しています。

「説明」欄に記載のとおり、予算の主なものと致しましては、「幼稚園の管理運営費」と「江原北」と「脇町」の2園で実施する予定の「一時預かり事業」、いわゆる「預かり保育事業」などの経費でありまして、主に、職員の人件費でございます。

なお、2年度の予算額と比較して、「6千288万2千円」の「減額」となった主な理由は、本年4月から「岩倉認定こども園」が開園することにより、「廃園」となる「岩倉幼稚園」の経費の「減額」などです。

(12) ページをお開き願います。

次に、「社会教育費」の「項」でございます。

最初に、「目」の最上段、「社会教育総務費」の予算額は、「7千738万5千円」を計上しています。

「説明」欄に記載のとおり、予算の主なものと致しましては、小学校の児童たちの放課後対策として、実施しております「放課後子どもプラン事業」

と、各中学校区におきまして、地域ぐるみで、学校運営を支援するために、取り組んで頂いております「学校支援地域本部事業」などのほか、「文化祭」や「成人式」の経費、また、「地域学習推進課」の一部の職員の人件費などでございます。

なお、2年度の予算額と比較して、「40万1千円」の「減額」となった主な理由は、「放課後子どもプラン事業」における各「放課後子ども教室」や「スポーツクラブ」の運営見直しにより、委託料を「減額」したことなどで、あります。

次に、「公民館費」の予算額は、「172万2千円」を計上しております。内容は、記載のとおりであります。

次に、「図書館費」の予算額は、「6千535万1千円」を計上しております。予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「市立図書館」の光熱水費や、指定管理料などがございます。

なお、2年度の予算額と比較して、「16万円」の「減額」となった主な理由は、「光熱水費」の「減額」などがございます。

次に、「文化財保護費」の予算額は、「3千91万4千円」を計上しております。予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、文化財、これは、「青木家」、「三木家」、「郡里廃寺跡」、「段の塚穴」などの文化財でありまして、文化財の管理運営の経費、それと、「郡里廃寺跡環境整備事業」の経費などであります。

このうち、「郡里廃寺跡 環境整備事業」につきましては、指定区域において、唯一、公有化ができていなかった民有地の購入費や、「不動産鑑定評価業務委託料」のほか、「整備基本計画策定支援業務委託料」、そして、この基本計画において示される整備のイメージ図の看板の設置など、「2千416万9千円」の事業費を計上しております。

なお、2年度の予算額と比較して、「1千688万6千円」の「増額」となった主な理由は、「郡里廃寺跡 環境整備事業」における「用地購入費」や、「不動産鑑定評価委託料」の計上などがございます。

次に、「重要伝統的 建造物群 保存対策事業費」、そこには、短くして「重伝建 保存対策費」と記載していますが、この予算額は、「695万8千円」を計上しています。

予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「うだつの町並み 建造物 保存事業」の経費を計上しております。2棟の保存修理に係る助成金、「499万7千円」のほか、昨年の台風14号の被害を受けた5棟の復旧修理に係る助成金「154万5千円」などを計上しております。

なお、2年度の予算額と比較して、「1千220万8千円」の「減額」となった主な理由は、建造物の修理件数が「減少」したためであります。

次に、「教育集会所事業費」につきましては、教育集会所の管理運営経費として、予算額は、「295万5千円」を計上しております。2年度の予算額と比較して、「80万8千円」の「減額」となった主な理由は、2年度に計上しておりました「施設解体の経費」を3年度には、計上していないこと、などがございます。

次に、「人権教育費」の予算額は、「419万4千円」を計上しております。予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、「人権教育・識字学級交流事業」の経費などがございます。

この予算には、「人権教育推進協議会」の活動経費が計上されておりますので、簡単にご説明いたします。

同協議会は、会長不在の状況が続いておりますので、再スタートができるように、美馬支部や木屋平支部の支部長さんなどに相談しながら、進めているところであります。

この件につきましては、藤田市長から指示を受けておりまして、その内容は、再スタートを急ぐ余り、もめ事やトラブルなどが起こってしまうおそれもあるので、（例えば、組織の分裂など）そのようなことにならないよう、3年度は、人権教育推進協議会の組織体制づくりを、じっくりと足下（あしもと）を固めながら、慎重に進めていく、ということでもあります。

さらに、同協議会に係る予算につきましては、2年度までは、補助金に一括して計上しておりましたが、3年度には、補助金ではなく、例えば、人権研修に係る県外の大会への参加経費は、旅費やバスの借上料で、また、講演会の講師の経費は、報償費で、といったように、それぞれ、該当する費目に振り分けて、計上しております。

そして、同協議会の組織体制がしっかりと固まった後(のち)には、従来のように、補助金に一括して計上するといったことも、同協議会の考えを確認しながら、検討してまいりたいと考えております。

なお、2年度の予算額と比較して、「128万7千円」の「減額」となった主な理由は、人権教育推進協議会に係る経費が、「122万5千円」の「減額」となったことなどでございます。

次に、「青少年育成センター費」の予算額は、「748万8千円」を計上しております。内容は、記載のとおりであります。

次に、「保健体育費」の「項」でございます。

最初に、上段の「保健体育総務費」の予算額は、「3千286万8千円」を計上しております。

予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、各種スポーツ振興事業などの経費でございまして、「市体育協会」、「スポーツ少年団」、「徳島駅伝の選手育成事業」などに対する補助金のほか、「地域学習推進課」の一部の職員の人件費などがございます。

なお、2年度の予算額と比較して、「994万5千円」の「減額」となった主な理由は、「東京2020オリンピック聖火リレー開催事業の負担金」と、「美馬駅伝・クロスカントリー大会実行委員会補助金」を計上しなかったこと、などであります。

このうち、「美馬駅伝・クロスカントリー大会」につきましては、藤田市長からの指示により、3年度は、大会の開催を一旦、中止して、内容の見直しを行うこととしてございまして、「美と健康」に重点を置き、より多くの市民が関わりを持てるような大会となることを基本として検討し、令和4年度には、新たな大会としての開催をめざすこととしたため、予算を計上しておりません。

次に、中段の「体育施設費」の予算額は、「2億6千888万8千円」を計上しております。

予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、上段の「体育施設管理運営事業」、これは、うだつアリーナを含む都市公園や、吉野川河畔ふれあい広場の指定管理料などでありまして、それと、下段の「うだつアリーナ改修工事請負費」などがございます。

「うだつアリーナ改修工事」の主なものと致しましてはアリーナ床面の張り替え、照明器具のLED化、屋上の防水などがございますので、着工後も、入浴施設やテニスコートは、利用できますが、会議室やトレーニング室は、工事の進み具合に応じて、利用を見合わせることでございまして、

工期につきましては、本年7月頃から来年1月頃までを予定しているところですが、今後、新型コロナウイルスのワクチンの集団接種の特設会場として、うだつアリーナを使用することになった場合には、そちらを優先し、工期を変更することが考えられるところであります。

なお、2年度の予算額と比較して、「1億9千178万1千円」の「増額」となった主な理由は、ただ今申し上げた「うだつアリーナ改修工事請負費」の計上などがございます。

次の「学校給食費」の予算額は、「2億6千365万8千円」を計上しております。

予算の主なものと致しましては、「説明」欄に記載のとおり、上段の学校給食センター、これは、3つの「共同調理場」と、「穴吹学校給食センター」の合計4つ施設のことではありますが、学校給食センターの管理運営事業として、職員の人件費をはじめ、美馬市産米 給食推進事業の経費などがございます。

下段の「学校給食センター整備事業」は、現在、施設の一元化を図るために、民間事業者「整備計画」の策定に向けた支援を委託し、計画の素案づくりを進めているところでございますが、その計画には、施設的设计、建設、そして、運営について、民間のノウハウを活用し、経費の削減や、より質の高いサービスの提供などを目指して事業に取り組む、いわゆる「PPP/PFI事業方式」による事業実施の効果を検討することが盛り込まれる予定でございます。

このため、本市に適した「PPP/PFI事業方式」の詳細な検討を行い、事業を進めるため、3年度から4年度にかけて、「事業者選定支援業務」を外部のアドバイザーに委託することとしており、このための委託料として、3年度は「1千496万円」を計上しております。

大泉副教育長

なお、3年度の予算額には、反映されませんが、4年度分は、「869万円」を計上することについて、3年度予算に「債務負担行為」を設定しておりまして、「事業者選定支援業務委託料」の総額は、「2千365万円」を予定しております。

このほか、この整備事業の施設の建設地であります脇町小星地区は、「生涯活躍のまち、移住交流促進拠点」でございますので、これと一体的に建設用地の造成工事を行うこととしておりまして、造成面積の割合に応じて算出し、計上している工事請負費「4千960万円」などが、予算の主なものであります。

なお、2年度の予算額と比較して、「4千216万4千円」の「増額」となった主な理由は、ただ今申し上げた「学校給食センター整備事業」の計上などでございます。

「教育費」の総額と致しましては、表の最下段の「計」のとおり、3年度の予算額は、「15億3千594万7千円」でありまして、この額は、前年度の当初予算額と比べて、「13.0パーセント」増の、「1億7千674万5千円」の「増額」、となっております。

以上、簡単ではございますが、令和3年度当初予算（案）の説明とさせていただきます。

よろしくお願い致します。

議長（藤田市長）

議題2の、教育費の令和2年度当初予算案について、何か御意見等がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

（意見なし）

それでは、議題2の、教育費の令和3年度当初予算（案）につきましては、今月24日開会の令和3年3月美馬市議会定例会に提案し、議会の審議を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。続きまして、議題3の学校安全について事務局から説明してください。

藤本教育総務課長

議題3) 学校安全について 3つの内容を説明いたします。

まず始めに 1 学校施設管理についてでございますが、教育総務課では、学校施設について、適宜、修繕や大規模改修等による更新を行いながら、施設管理を行っておりますが、

昨年10月29日に美馬中学校体育館においてPCBを使用した照明用安定器が破損し液漏れする事故が発生いたしました。

PCB使用の安定器については、現在使用が禁止されているもので、平成12年に文部科学省より交換するよう通知がだされていたところです。

事故原因といたしましては、施設台帳の改築年が使用禁止年以降であったことから、当時の点検から漏れ、使用が継続されたのではないかと推測しておりますが、明確な原因は不明でございます。

この事故による、人的被害はありませんでしたが、改めて市長部局とも連携し、廃校も含めて学校施設の点検を実施いたしましたところ、木屋平小学校体育館と旧渕名小学校の校舎でPCB使用の安定器が発見されました。

この2カ所についても交換ができていなかった理由の特定にはいたりませんでした。

美馬中学校での事故及び、その後の点検により発見されたPCB使用機器につきましては、県への報告と登録を行い、最終処分場への搬入を2月9日までに完了いたしました。

これまでの確認が十分でなかったことについては、大変申し訳ございませんでした。

学校施設は法令に基づき、適切な施設管理を行ってまいります。

次に、2 新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。

学校においては、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の予防や対策を行ってまいりましたが、この度の新型コロナウイルス感染症については、文部科学省から「学校における新型コロナ感染症に関する衛生管理マニュアル」が発出され、市内の学校では「学校の新しい生活様式」に従い、基本的な感染症対策と、3密の回避による集団感染のリスク対応を児童生徒へ指導し、実践しております。

各学校のコロナ対策についても、別添の学校活動資料に記載がございます

藤本教育総務課長

。2 ページに江原南小学校の取り組みがございますが、子どもたちへの手指消毒や、マスク着用の指導、また施設消毒や給食の方法などでもコロナ対策を行っております。

また、臨時休業やその後の授業再開に対し、感染症対策関連の事業を実施しております。事業内容は、1つは感染リスク低減のための消毒液や換気用備品等の整備また2つめとしては、ICTを活用した3密を回避した授業や休業に伴うオンライン学習への対応でございます。

美馬市において、実施した学校の感染症対策の関連事業は裏面に一覧表を添付しております。

年度当初には、学校の臨時休業に伴う家庭学習支援のための郵便料やオンライン学習のための、家庭へのネットワーク工事費の助成をおこない、夏休みには、短縮して行った授業のための、熱中症対策の飲料の提供と支援員、調理員の配置、また、授業再開後のスクールバスやタクシーの密を避けるための増便や、学校施設の消毒やICTによる教育備品の整備等の授業を安全に継続するための事業の切れ目のない実施に勤めました。

なお、この一覧表は、現在の予算額でございまして、今後、実績により減額されるものも含まれておりますので御理解ください。

続いて、3 交通安全プログラムについて でございます。

これは、通学中の交通事故だけでなく、地震などの自然災害、また不審者などによる事故防止を図るため、関係機関が連携し通学路の点検と危険箇所の対策を実施するものです。

教育委員会と関係機関が、市内を3地区にわけ、1年に1地区ずつ順に点検を実施しております。予定していない地区であっても緊急性がある場合は点検と対策を実施します。

本年度の対象地区は脇町地区で、点検は8月28日に、合計8カ所で行い、この点検を受け、10月21日に「通学路安全推進連絡協議会」を開催し、危険カ所の対応を決定しております。今後も、定期的な点検による、通学路の安全の確保に努めてまいります。

以上で議題3 学校安全についての説明とさせていただきます。

なお、誠に勝手ですが、この議題3の御協議のあと、ICT教育や英語活動また、コロナ対応等の学校活動の例として脇町小学校の映像をご覧いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

議長（藤田市長）

議題3の学校安全について、御質問や御意見がございましたら、お願いたします。

（意見なし）

それでは、映像をお願いします。

映像紹介。

藤本教育総務課長

これで、学校活動の紹介を終わります。そのほかの学校につきましては別添の資料によりそれぞれの取り組みを御確認いただけますようお願いいたします。

議長（藤田市長）

最後にその他の件について、でございますが、何か委員の皆さんからございましたら、お願いたします。

上田委員

日頃、感じていることを少し述べさせていただきます。

私は委員をさせていただいて4年ほどになります。その間、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校を、学校訪問などを通して直接見せていただいたり、園長先生や校長先生などからお話を聞く機会をいただいたりしました。

それで、今一番感じていることは、教育現場は急激に大きな変化、しかも素晴らしい変化をしていっているということでございます。

例えば、ICT教育が本当に着実に進められています。電子機器が各校に的確に整備され、それを使った活動・授業が日常的に行われ活用されてきました。

小中学校では、子ども達がそれを普通に使いこなしていて、学習効果を高

上田委員

めている様子がうかがえました。私などの黒板とチョークが主流の時代はもとより、4年ほど前と比べても進捗の度合いの大きさに驚かされています。

また、英語教育についてもそうです。幼児期から実践されており、小学校では学習指導要領の改訂前から計画的に進められ、今年度の指導要領改訂による教科化も円滑であったと聞いています。

今年度中学校訪問で目を見張ったのは、中学生の英会話の力です。ALTと楽しそうに英語で話す中学3年生の姿に、本市の英語教育の集大成を見た思いがしました。ALTや外国語活動支援講師の方々と接する機会や学習する時間をたくさん確保していただいた成果だと思います。

この1年コロナで臨時休業があり、いろいろな行事も中止や縮小がなされました。それぞれの教育現場は大変だったと思います。

ただ、先生方の話では、リモート会議やリモート研修などにより、出張で学校を留守にする時間が減り、その子ども達と教員、また教職員同士が向き合える時間がとても増えたそうで、このことは何よりだったと思います。

コロナ禍であっても、子ども達は今までと違うことや新しい様式を取り入れ、たくましく成長してくれているようです。

子ども達が喜んで登園・登校出来る教育環境がハード面・ソフト面ともに充実し豊かですので、本市の子ども達は健やかに育っていくのではないかと常々感じている次第です。

村岡教育長

市長、教育長。

議長（藤田市長）

はい、教育長。

村岡教育長

教育委員会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

藤田市長様におかれましては、日頃より、美馬市の教育行政の推進に対し、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに対しまして、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

特に、コロナ禍で厳しい財政状況の中、GIGAスクール構想実現のための一人一台タブレット端末や安全・安心なICT環境の整備をはじめ、ネイティブ講師による英語教育の充実、美味しい給食の提供、教員の業務負担を軽減するスクールサポートスタッフや部活動指導員の配置など、子どもたちだけでなく、教職員の働き方改革にまでご配慮をいただき、多額の予算を計上していただいておりますことに、心から感謝しております。ありがとうございます。

今年度は、コロナ感染症拡大防止による全国一斉臨時休業期間中に、慌ただしく前年度が終了し、児童生徒・保護者をはじめ、関係者全てが混乱の中で新年度をスタートさせました。

また、小学校では、新学習指導要領の全面实施による外国語の教科化やプログラミング教育の必修化など、教育改革に伴う新しい対応に加え、各学校では、これまで当たり前に行われていた全ての行事や活動について、目標・内容・効果・方法など、多くの点を見直す必要にも迫られました。

特に、6年生の子どもたちが楽しみにしていた修学旅行につきましては、密を避けるバスの増便をしていただいたお陰で、日程と行き先を変更し、万全の感染防止対策をしながら無事終了することができました。中止も覚悟していた行事でしたが、6年生にとっては生涯忘れることのない、小学校時代最高の思い出ができたことと思います。ありがとうございました。

「コロナ」という単語を耳にしてわずか1年、経験したことのない変化に戸惑い、正解の見いだせない毎日でしたが、美馬市におきましては、ありがたいことに、市長さんの教育に対する深いご理解のお陰で、教職員一同、常に学校の果たす役割や使命を忘れることなく、どのような方法であれば実現可能なのかと発想を転換し、保護者や地域の方々にもご協力をいただき、一丸となって、子どもたちの健やかな成長を応援することができました。

「教育は国家百年の大計」と言われます。いつも市長さんがおっしゃっておられるとおり、私も「まちづくりは人づくり、人づくりは教育である」と信じています。社会の急激な変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しており、家庭や地域の教育力の低下、いじめ・不登校、意欲や体力・運動能力の低下、肥満傾向など、様々な課題が生じておりますし、コロナ禍は私たちに様々な問いを投げかけています。

しかし、マスクの着用などの新しい生活様式を取り入れたことが、インフ

村岡教育長

ルエンザをはじめとする各種の感染症対策など、プラスの効果も出ておりますし、オンラインを利用した双方向の会議や研修会などを取り入れたことにより、出張などによる移動時間が削減され、子どもたちと向き合う時間が増えるというメリットを見つけることもできました。

予測困難な時代とは言え、未来の美馬市の担い手となる子どもたちをどう育てていくのか、今こそ、ピンチをチャンスに変える絶好の機会であるとポジティブに考え、今後とも、学校教育、生涯学習、歴史・文化・芸術・スポーツなど、教育委員会が担う分野において、目標を明確にするとともに、皆で知恵を出し合い、力を合わせ、よい結果が残せるよう努力したいと思っています。

本日、市長からいただいたご指摘やアドバイスを踏まえ、今後とも、長期的かつグローバルな視点に立って、未来を担う子どもたちや市民の皆様が、美しい自然や歴史・文化に恵まれた故郷を愛し、地域の絆を大切にしながら、誰一人取り残さない、SDGsの目標を実現する「一歩先行く」教育、また、現在、世界から注目されているオリンピック・パラリンピックの大会ビジョンに掲げられたコンセプト、特に、多様性と調和が尊重される教育の推進に力を尽くしたいと思っています。

最後になりますが、お手元に「美馬市立小中学校 令和2年度学校活動」という資料をお配りさせていただきました。各学校の取組を紹介させていただいておりますので、お時間のあるときにお目通しいただき、ご助言等いただければと思います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

議長（藤田市長）

他に御意見がなければ、以上をもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。慎重な御審議を賜りまして、ありがとうございました。

吉田企画総務部長

以上をもちまして会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

（午後2時10分終了）